

鈴鹿の山々を借景にいま、花咲き香り立つ

2014年、鈴鹿山脈の麓に開園した「鈴鹿の森庭園」。3月31日まで「しだれ梅まつり2018」が開催され、約200本のしだれ梅の名木が見事な花を咲かせます。風光明媚な景色と梅の花々との競演は、「世界中を探してもどこにもない美しさ」と賞賛され、国内はもとより、海外からも訪れる見物客の心を揺さぶり、梅の新名所として人気を呼んでいます。

日本の伝統園芸文化を 世界に誇り継承する庭園

まだまだ寒さが残る時季、待ち遠しい春の訪れを告げる梅の花。可憐な桃色の花は良い香りを放ち、私たちの気持ちを高揚させてくれます。ここ「鈴鹿の森庭園」は、しだれ梅の研究栽培農園。満開時のみ一般の人々が観梅できる回遊式庭園として公開されます。

庭園がある山本町の辺りは昔、サツキの苗木栽培が盛んでした。しかし、20年ほど前からサツキの需要が減少。「植物生産と造園を生業とする私は何か自分にしかできない植物の生産ができないものかと模索していました。そんなとき、「なばなの里」のあじさい園の設計を担当し、花の鑑賞が観光業になり、その楽しさに触れる機



夜のライトアップ時は幻想的。寒いので必ず暖かい服装でお出かけ

会に恵まれました」と、鈴鹿の森庭園の運営責任者・松葉谷佳彦さんは振り返ります。

多くの人に花の魅力を伝える庭園をつくる構想が浮かんだ松葉谷さん。鑑賞のメインには、しだれ梅を選びました。梅や盆栽のように仕立てと造形技術が必要な植物は、日本独特の伝統園芸文化です。また、しだれ梅の仕立て技術に長けた職人が減っているのも理由の一つでした。「しだれ梅の研究栽培は、日本文化の存続と普及への貢献になる。自分自身がその伝承者となって技術を後世に伝えたい」という強い思いに駆られました。この庭園は、後世に和の伝統園芸文化の種を残す役割も担っているのです。

庭園の総面積は約6000坪。築山の間を流れるように回廊がめぐり、日本庭園らしい曲線美に富んだ伝統的なつくりです。「ヨーロッパなどをめぐり、西洋の直線的な伝統園芸も研究しました。ですが、曲線的な和の庭園の美しさは、国籍や美意識に関わらず人々の感性に訴える。それは100年後も200年後も変わらない。世界中の人々から一層求められるようになりたい」。その言葉通り、海外からの来場者は年々増加。プロ・アマ問わず、多くの写真家が訪れ、依頼せずとも数々の写真雑誌で紹介されるようになりました。「園内のどこで撮っても美しい構図。観せるために計算し尽くされた造形美、名人と呼ばれる職人たちが手掛けたしだれ梅の仕立てなど、じっくりと鑑賞していただきたい。これは世界に誇れる日本庭園です」と胸を張ります。

園内のどこで撮っても美しい構図
ここは世界に誇れる日本庭園



- 2007年に山林の整備を開始。築山を施して梅の木を植え付けました。築山は水はけを良くし、根に空気を送る、根を踏ませない工夫でもあります。
- しだれ梅を手がけたのは早春にいち早く咲き、松竹梅でめでたく、梅の名木の国外流出による枯渇が防げるという理由がある。「これが今年の成長」と枝を見せる松葉谷さん。どう枝垂れさせるのか、計算して剪定するのが名人の腕
- 「天の龍」。すべてのしだれ梅が根や枝を傷つけないよう細心の注意をはらって大事に移植されました

至るところで歓声が沸く 溜息が出るほど美しい庭園

一番の見どころは庭園の入口正面。地面すれすれの枝までびっしり花を咲かせた「天の龍」と、回廊を挟んだ「地の龍」が桃色の花を無数に咲かせ、私たちを出迎えてくれます。2本は「呉服枝垂（くれはしだれ）」と呼ばれる品種の古木。初春にいち早く八重咲きの花を咲かせます。松葉谷さんは、梅の名産地・福岡県にいる所有者を何度も訪ね、5年をかけて交渉を重ね、2本の古木をこの地に持ってきました。その大きく堂々とした佇まいと雅やかに枝垂れる姿に、思わず歓声があがります。

「天の龍、地の龍とも品種確認されているなかで日本最古のしだれ梅と思われます。梅は中国渡来の植物とされ、日本の古い文献にも登場しますが、しだれ梅は江戸後期になってから登場するため、比較的新しい品種といえます」。

園内にはこの呉服枝垂を中心に、白加賀や十郎などの花弁が白い梅や、八重寒紅梅、鹿児島紅など、赤みの濃い花も見られ、その数は約20



鈴鹿の森庭園運営責任者 株式会社マルマツナーセリー代表 松葉谷佳彦さん
鈴鹿の森庭園は、株式会社赤塚植物園と協力して運営。計画から開園まで15年を費やしました。地域の人こそ、庭園に足を運んでほしいと呼びかけます

0本。そのすべてが名人、匠と呼ばれる職人たちによって丹精込めて仕立てられています。

本格的な春になり、花がこぼれると、約40日を費やす枝の剪定に入ります。その後、防虫処理を施しますが、近年は外来種の害虫も増加。4月から気温が下がる10月までの7カ月は全く気が抜けません。その後、厳しい冬を耐え、寒さが緩む2月中旬頃から花が咲き始めます。平均気温が15〜20度になると満開の見頃を迎えます。「今年の見頃のピークは、3月上旬から中旬になりそうです」と、松葉谷さんは予測します。

残雪が残る鈴鹿山脈としだれ梅の大パノラマを楽しむ見晴台や、しだれ梅と玄海ツツジが織りなす景色も見どころ。時期により早咲きの桜も楽しめます。今年は希少なミツバツツジも植えられ、紫色が彩りに加わります。花の種類を増やすのは、少しずつでも一般公開する期間を延ばすため。「芝生公園を増設して憩いの場を提供したい。夏場は湧き水を使った池で涼を演出したい。季節を問わず愛される場になるよう、次の構想を練っている最中です。この庭園の価値を高めて鈴鹿の、三重の観光資源としての一翼を担えたらうれしい」と松葉谷さん。意欲的に語る笑顔に期待は膨らむばかりです。

研究栽培農園 鈴鹿の森庭園「しだれ梅まつり2018」

2月17日[土]~3月31日[土] (予定)開催期間は無休
9:00~16:00 (夜間ライトアップは18:00~21:00)

入園料/一般500~1,500円※開花状況により変動します。小学生は半額、未就学児は無料
鈴鹿市山本町151-2 駐車場200台分
TEL059-371-1777 <http://www.akatsuka.gr.jp>